

令和7年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

管理機関名(北海道)

1. 取組についての評価

・「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」において企画した様々なイベントや事業を通して産学連携を図っている。広大な北海道において各地の企業と専門高校のネットワークを構築するために、4つの拠点校への重点的支援や産業教員実務家リストの活用を図っている。特に「学校と産業界が一緒に人を育てていく」という意識の醸成に意を配していることから、今後のより密度の濃い産学連携構築が期待される。

・北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトでは、趣旨として掲げられている「横と縦のつながり」を基盤に、明確なゴールイメージが設定され、それに対応した活動内容と評価指標(KPI)が適切に構築されていた。そのため、取組全体に一貫性があり、方向性がぶれることなく着実に進められていた点が高く評価できる。

専門高校と産業界をつなぐ在り方について、多面的・多角的な視点から工夫された連携のアイデアが随所に見られ、学校と産業界の双方にとって意義のある関係づくりが行われていた。特に、産学連携コーディネーターである月館氏の継続的な活動により、人的ネットワークが大きく広がったことは、本プロジェクトの重要な成果の一つであると考えられる。

北海道が抱える経済界の課題である半導体、洋上風力、六次産業化などに関連する職業への理解を深めるとともに、現場で指導にあたる教員が抱える課題にも目を向け、さまざまな角度から問いを設定していた点が特徴的であった。

オンラインとオフラインのイベントを効果的に組み合わせることで、多様な立場の関係者が参加しやすい環境が整えられており、取組の質を高める工夫がなされていた。

加えて、学校の経営層にあたる管理職間の交流を促進するとともに、産業教育審議会との方向性の共有を図ることで、取組を支える基盤が丁寧に整備されていた。

こうした重層的な連携により、プロジェクト全体の安定性と実効性が高められており、今後の継承や発展にも大いに期待が持てる取組である。

・産学連携ユナイテッドなど、道県を超えての取組も素晴らしい。

2. 今後の課題と考えられること

・これまでに培ったマイスター・ハイスクール普及促進事業における経験、ノウハウを今後のネクストハイスクール構想に活かしていくためには、産学連携の更なる充実が求められる。具体的には、こうした事業によって生徒にどのような力がついたのか、あるいはどのような力が伸びなかったのかを定量的に把握し、その対応策を産学連携のプラットフォームで協議、実践し、更にコーディネーターを活用した伴走支援による横展開を進めていく必要がある。その過程で普通科を含めた学科間、あるいは学校間の連携を更に強化していくことも重要になってくると思料される。

・専門高校における取組は、農業、工業などを中心に、特色ある実践が数多く見られた一方で、今後は看護、福祉といった分野においても、取組のさらなる充実が期待される。これらの分野は、地域社会の基盤を支える重要な役割を担っており、専門高校における学びの意義も大きいと考えられる。例えば、看護師や介護福祉士の人材確保は、北海道全体としても重要な課題の一つであることから、学びの内容を一層充実させるとともに、今後の医療・福祉分野の在り方を見据え、どのような資質・能力を備えた人材を育成していくことが求められるのかについて、有識者や関係機関と意見交換を行う機会を設けることも有効であると考えられる。こうした取組を通して、専門分野の学びを地域課題と結び付けながら深化させることで、生徒が将来の役割を具体的に思い描き、地域社会を支える担い手として成長していくことが期待される。

・産業実務家教員ミーティングの実施や、学校と産業で一緒に育てている感を作るという意識改革の取組に今後期待。

・発表時間の関係だと思うが、各学校の細かな取組が見えてこなかった。各学校の連携状況や学校の変化が見えてくるとよい。